

学校だより

がっこう 1**月号**



れいわ ねん がつ か 令和4年4月7日 よこはまし りつかみいい だ しょうがっこう 横浜市立上飯田 小 学校

http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamiiida/

がい しんせつ つ かさ 小さな親切を積み重ねて

こうちょう よこやまよしあき 校長 横山美明

^{ぁたら ねんど はじ こさま にゅうがく しんきゅう} 新 しい年度が始まりました。お子様のご 入 学、ご進 級 おめでとうございます。

せんそう じょうきょう しんがた かんせんしゃすう たか ど あか わ こユースでは、戦争の 状 況 や新型コロナウィルスの感染者数が高止まりなど、なかなか明るい話 はるやす はい すこ まえ ちいき かた あか し 題は聞こえてきませんが、春休みに入る少し前に地域の方から明るいお知らせをいただきました。

これまでにも公園や登下校中に地域のお年寄りが怪我をしたり気分が悪くなったりして困っていた時に、本校の子ども達が学校に知らせに来たり近くの大人を呼びに行ったりと、進んで行動してくれたというお礼のお知らせが寄せられていました。そういったご連絡をいただいた際には、放送朝会や学をかったが、そうした善い行いについて子ども達にも伝えてきました。人が困っていることに気付くのは多くの人にもできますが、それを見てすぐに行動に移せるのは簡単なことではありません。またな、大人でもなかなかできないことを本校の子ども達が自然に動けていることはとても素晴らしいことだとい言えます。

「親切」という言葉があります。「親を切る」とは書きますが、この場合の「親」は「親しい」「身近に接する」という意味で、「切」は「心から」「ひたすら」という意味で使われています。ですから「親切」は「相手の身になって、その人のためにあれこれと尽くすこと。」という意味になります。 はい スれが深く、切実であるという意味から「深切」という字を使ったり当て字として「心切」としてなままましたりすることもあったようです。 1963年に当時の東京大学の卒業式で茅誠司総長が「小さな親切を勇気をもってやってほしい」と告辞し、同年6月13日に同氏らが「小さな親切」運動を始めたのをきっかけに、6月13日は「小さな親切運動スタートの日」となったそうです。

しいず ひとりひとり じぶん みぢか ところ ちい しいせつ つ かさ おお ちから 何れにしても、一人一人が自分の身近な 所 で小さな親切を積み重ねていくことが大きな 力 となり へいわ よ なか まち ほんこう こ たち こうどう 平和な世の中につながっていくと思います。本校の子ども達がこれまで行動してきたように、困ってい ひと き づ こうどう うつ しんせつ き ち たいせつ る人に気付いたら行動に移すという親切の気持ちを大切にしていってほしいと思います。

こんねんど ききゅ み なか がっこうぎょうじ はじ きまぎま かつどう へんこう ちゅうし 今年度もなかなか先行きが見えない中、学校行事を始め様々な活動が変更になったり中止になった しまることがあるかもしれませんが、子ども達の健康・安全を最優先に 考え、取り組んでまいります ので、ご理解とご 協 力 よろしくお願いいたします。